さび面素地調整補助剤

ハイポンサビスタ®

NETIS(新技術情報提供システム)
登録No.KK-140025-A

ホルムアルデヒド放散等級
F☆☆☆☆

鉄部改修時の素地調整は、塗り替え塗膜の防食性能や塗膜寿命に大きく影響します。しかし、構造物の形状によって電動工具が入らない部位や素地調整による**火花や粉塵、騒音等が出せない作業環境**(住宅密集地やプラント工場構内等)では、**十分なケレンができません。**その場合、塗料の**防食性能**が十分に**発揮できない**ことがあります。
ハイポンサビスタは、さび止め塗料を塗布する前に、このような**除去しきれない残存さびに塗装することでイオントラップ剤の効果により鉄イオンを安定化させ、残存さびからの影響を軽減する、さび面の素地調整補助剤になります。**

特　長

素地調整の補助

素地調整において、さびを完全に除去しきれない部位の防錆性を向上します。

優れた防食性

変性エポキシ樹脂塗料下塗りとの組み合わせで、3種ケレンの素地調整でも優れた防食性を発揮します。

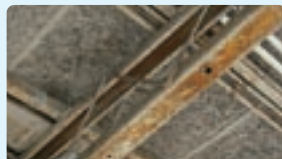
優れた付着性

さび面に対して深く浸透し固着することにより、優れた付着性を発揮します。

優れた乾燥性

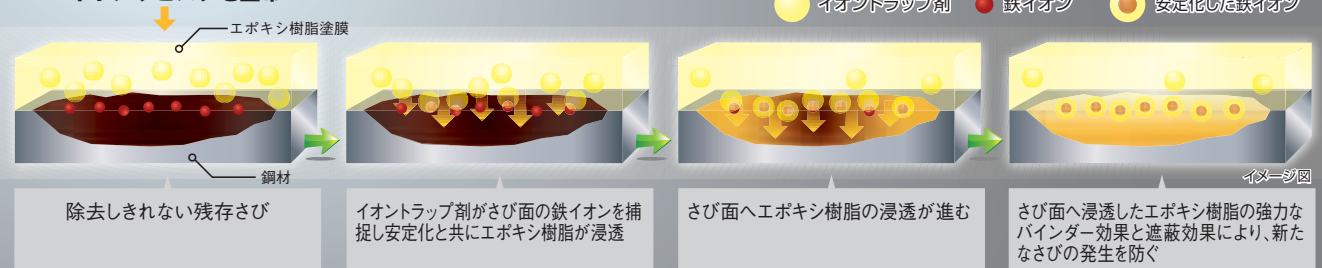
乾燥が速く、条件によりその日のうちに次工程に移ることができます。

適用部位

電動工具が入らなく、さびを完全に除去できない部位

鋼材の形状が複雑でさびを完全に除去できない部位

火花や粉塵、騒音等が出せない作業環境でさびを完全に除去できない部位

イオントラップ剤による鉄イオン安定化メカニズム

ハイポンサビスタに含まれる**イオントラップ剤**が、**さび中の鉄イオンを捕捉し安定化させる**ことによってさびの**成長を防ぎます。**
また、ハイポンサビスタに含まれる**特殊防錆顔料**が、保護皮膜効果を与え、さらに**エポキシ樹脂塗膜**による**強力なバインダー効果**と**さびへの浸透**による**遮蔽効果**により新たな**さびの発生を防ぎます。**

用　途

経年劣化した各種鋼構造物(橋梁・タンク外面・鉄骨など)、建築物の鉄部(鉄扉、手すり、架台など)などの素地調整後の除去しきれない残存さびへの補修塗り。

荷　姿

15kgセット(塗料液:硬化剤=10.5kg:4.5kg)
4kgセット(塗料液:硬化剤= 2.8kg: 1.2kg)

色　相

乳白色クリヤー

ハイポンサビスタ

NETIS（新技術情報提供システム）
登録No.KK-140025-A

標準塗装仕様例（塗り替え）

工　程	塗料名（一般名称）	使用量（kg/㎡/回）	塗り回数	塗装方法	シンナー名（希釈率）	塗り重ね乾燥時間（23℃）
下地調整	発錆部は、手工具、電動工具などを使ってISO St2以上除錆する。 旧塗膜（活膜）は、サンドペーパーやナイロン不織布研磨材などを使って研磨し、油分はシンナー拭きして除去する。					
補修塗り	**ハイポンサビスタ**（さび面素地調整補助剤）	**0.12**	**1**	**はけ·ウールローラー**	**ハイポンエポキシシンナー**（0〜5%）	**4時間以上7日以内**
下塗り	ハイポン20ファイン（弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗り）	0.20	1	はけ·ウールローラー	塗料用シンナーA（0〜10%）	16時間以上10日以内
中塗り	デュフロン100ファイン中塗（弱溶剤ふっ素樹脂塗料用中塗り）	0.14	1	はけ·ウールローラー	塗料用シンナーA（0〜10%）	16時間以上10日以内
上塗り	デュフロン100ファイン（弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗り）	0.12	1	はけ·ウールローラー	塗料用シンナーA（0〜5%）	―

・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。
・旧塗膜がラッカーシンナーにて溶解またはリフティングする場合は、旧塗膜への施工は避けてください。
・層状さびや浮きさびは必ず除去してから施工してください。
・海岸部等の飛来塩分量の多い塩害地域や凍結防止剤が散布されている環境の場合、被塗物表面に海塩粒子や凍結防止剤の塩の固着が考えられます。水洗いにて被塗物表面の塩分除去を行ってください。
水洗い後は、被塗物表面が十分に乾燥してから塗装を行ってください。

ハイポンサビスタの使用方法

【調合】2液形のため「塗料液/硬化剤=7/3（重量比）」の混合比により混合し、十分にかくはんしてください。
【ポットライフ】 7時間（23℃）
【シンナー】希釈にはハイポンエポキシシンナーまたはハイポンエポキシシンナーS（夏季塗装）をご使用ください。
【塗装方法】溶剤用刷毛や短毛ローラーまたは中毛ローラーにて均一に塗装してください。
【塗り忘れ防止】ハイポンサビスタは塗装しますとクリヤー膜になりますので、塗装箇所が確認しづらい場合があります。塗り忘れを防止するために、休憩などで塗装を中断する場合には、テープなどで目印を付けてください。
【下塗り】補修塗りにて「ハイポンサビスタ」を塗装後には、必ずさび止め塗料による下塗りを行ってください。さび止め塗料は下記主な適用下塗りをご参照ください。
【中塗りおよび上塗り】下塗りに適合した中塗りおよび上塗りをご使用ください。詳しくは、各下塗りのカタログなどをご参照ください。

主な適用下塗り

弊社商品名
●ハイポン20デクロ　●ハイポン20ファイン　●ハイポン20ファインHB ●水性ハイポン20　●ハイポンファインプライマーⅡ ●1液ハイポンファインデクロ　●エスパーワンエース　など

・上記以外の適用下塗り塗料につきましては、最寄りの営業所までお問い合わせください。

乾燥時間

	5℃	23℃	30℃
指触乾燥	1時間	1時間	30分
塗り重ね乾燥	16時間以上7日以内	4時間以上7日以内	3時間以上7日以内

・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

■使用上の注意事項（詳細な内容については、各製品の使用説明書などでご確認ください。）

①溶剤系の塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口·空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願い致します。
②所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
③硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
④水の混入は絶対に避けてください。
⑤塗料を扱う場合は、皮膚に付着しないようにご注意ください。また、蒸気やミストなども吸い込まないように十分にご注意ください。
⑥塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合（高湿度、結露、降雨など）、塗膜表面が白化するおそれがあります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
⑦旧塗膜に発生した藻·かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
⑧内部塗替えにおいて旧塗膜がOP、FEなどの油性系の場合、研磨ずりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
⑨改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
⑩素地の乾燥は十分に行ってください。
⑪塗装場所の気温が5℃以下もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
⑫塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。
⑬屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
⑭塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
⑮塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
⑯飛散防止のため必ず養生を行ってください。
⑰シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。
⑱笠木、天端など長時間水が滞留する個所では塗膜の白化、腫れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
⑲塗料は内容物が均一になるようかくはんしてください。薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
⑳はけなどの塗料用具の洗いは、ラッカーシンナーを使用してください。
㉑ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
㉒可塑剤が多く含まれる塩ビゾル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革、塩ビクロスなどへの直接塗料はお避けください。また、これからの部材に塗膜が直接触れることがないようご注意ください。
㉓表面に特殊セラミック処理·特殊ガラスコート処理、フッ素コート処理、はっ水処理、光触媒処理などの特殊な処理を施した素材には、塗料が付着しない場合や、塗膜に不具合を生じる場合がありますので塗装を避けてください。
㉔没水部への使用は避けてください。
㉕建築物屋根への使用は避けてください。旧塗膜の種類により、塗り重ね部で十分な付着性が得られない場合があります。
㉖長毛ローラーでの塗装の場合、作業性が劣ることがございますので、短毛もしくは中毛ローラーをお勧めします。
㉗塗料漏洩の原因になりますので、保管·運搬時に容器を横倒しにしないでください。
㉘製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。

■安全衛生上の注意事項

ハイポンサビスタ　塗料液

横倒禁止

①本来の用途以外に使用しないでください。
②使用前に取扱説明書を入手してください。
③すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないでください。
④熱／火花／炎／高温のもののような着火源から遠ざけてください。−禁煙です。
⑤容器を密閉しておいてください。
⑥容器を接地／アースをとってください。
⑦防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用してください。
⑧火花を発生させない工具を使用してください。
⑨静電気放電に対する予防措置を講じてください。
⑩粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないでください。
⑪取扱い後は、手洗いおよびうがいを十分に行ってください。
⑫この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないでください。
⑬屋外または換気の良い場所でのみ使用してください。
⑭必要な時以外は、環境への放出を避けてください。
⑮保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用してください
⑯取り扱い中に酸化剤との接触を避ける。（酸化剤の例:消防法第1類、消防法第6類、硝酸、過酸化水素水、水酸化ナトリウム、水酸化 カリウム）
⑰気分が悪い時は、医師の診断／手当を受けてください。
⑱緊急の特別な処置が必要な場合は実施してください。
⑲口をすすいでください。
⑳容器からこぼれた時には、布で拭き取って水を張った容器に保管してください。
㉑漏出物を回収してください。
㉒皮膚または髪に付いた場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱いでください。皮膚を流水かシャワーで洗ってください。
㉓吸入した場合:気分が悪い時は、医師に連絡してください。
㉔吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。
㉕眼に入った場合:水で数分間注意深く洗ってください。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外してください。その後も洗浄を続けてください。
㉖ばく露またはばく露の懸念がある場合:医師の診断／手当てを受けてください。
㉗皮膚刺激を生じた場合:医師の診断／手当てを受けてください。
㉘眼の刺激が続く場合は:医師の診断／手当てを受けてください。
㉙汚染された衣類を脱いで、再使用する場合には洗濯してください。
㉚火災の場合:消火に適切な手段を使用してください。
㉛施錠して保管してください。
㉜換気の良い場所で保管してください。涼しいところにおいてください。
㉝直射日光や水濡れは厳禁です。
㉞塗料等の缶の積み重ねは3段までとしてください。
㉟日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。輸送中も50℃以上（スプレー缶の場合は40℃以上）の温度にばく露しないでください。
㊱容器はつり上げないでください。やむを得ずつり上げるときには、適切なつり具で、垂直に持ち上げ、落下に十分注意してください。（偏荷重になると取ってが外れ、落下事故の危険があります。）
㊲内容物／容器を国／地方自治体の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
㊳塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

＊上記の表示は一例です。色相などにより、容器の表示と異なる場合があります。
■詳細な内容、表示例以外の製品については、安全データシート（SDS）をご参照ください。
■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は事前にご相談ください。

危　険	危険有害性情報
	引火性の高い液体および蒸気／皮膚刺激／強い眼刺激／遺伝性疾患のおそれ／発がんのおそれ／生殖能または胎児への悪影響のおそれ／臓器の障害（単回暴露）／吸入すると有害／長期にわたるまたは反復暴露による臓器の障害／水生生物に毒性／長期的影響により水生生物に毒性

日本ペイント株式会社
お客さまセンター
☎03-3740-1120（東京）
☎06-6455-9113（大阪）
http://www.nipponpaint.co.jp/

カタログNo.
NP-S185
KE150306T
2015年3月現在

ニッペ ハイポンサビスタ

NETIS（新技術情報提供システム）
登録No.KK-140025-A

標準塗装仕様例（塗り替え）

工　程	塗料名（一般名称）	使用量（kg/m²/回）	塗り回数	塗装方法	シンナー名（希釈率）	塗り重ね乾燥時間（23℃）
下地調整	発錆部は、手工具、電動工具などを使ってISO St2以上除錆する。 旧塗膜（活膜）は、サンドペーパーやナイロン不織布研磨材などを使って研磨し、油分はシンナー拭きして除去する。					
補修塗り	**ハイポンサビスタ**（さび面素地調整補助剤）	**0.12**	**1**	**はけ・ウールローラー**	**ハイポンエポキシシンナー**（0～5%）	**4時間以上7日以内**
下塗り	ハイポン20ファイン（弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗り）	0.20	1	はけ・ウールローラー	塗料用シンナーA（0～10%）	16時間以上10日以内
中塗り	デュフロン100ファイン中塗（弱溶剤ふっ素樹脂塗料用中塗り）	0.14	1	はけ・ウールローラー	塗料用シンナーA（0～10%）	16時間以上10日以内
上塗り	デュフロン100ファイン（弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗り）	0.12	1	はけ・ウールローラー	塗料用シンナーA（0～5%）	—

・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。
・旧塗膜がラッカーシンナーにて溶解またはリフティングする場合は、旧塗膜への施工は避けてください。
・層状さびや浮きさびは必ず除去してから施工してください。
・海岸部等の飛来塩分量の多い塩害地域や凍結防止剤が散布されている環境の場合、被塗物表面に海塩粒子や凍結防止剤の塩の固着が考えられます。水洗いにて被塗物表面の塩分除去を行ってください。
水洗い後は、被塗物表面が十分に乾燥してから塗装を行ってください。

ハイポンサビスタの使用方法

【調合】2液形のため「塗料液/硬化剤=7/3（重量比）」の混合比により混合し、十分にかくはんしてください。
【ポットライフ】 7時間（23℃）
【シンナー】希釈にはハイポンエポキシシンナーまたはハイポンエポキシシンナーS（夏季塗装）をご使用ください。
【塗装方法】溶剤用刷毛や短毛ローラーまたは中毛ローラーにて均一に塗装してください。
【塗り忘れ防止】ハイポンサビスタは塗装しますとクリヤー膜になりますので、塗装箇所が確認しづらい場合があります。塗り忘れを防止するために、休憩などで塗装を中断する場合には、テープなどで目印を付けてください。
【下塗り】補修塗りにて「ハイポンサビスタ」を塗装後には、必ずさび止め塗料による下塗りを行ってください。さび止め塗料は下記主な適用下塗りをご参照ください。
【中塗りおよび上塗り】下塗りに適合した中塗りおよび上塗りをご使用ください。詳しくは、各下塗りのカタログなどをご参照ください。

主な適用下塗り

弊社商品名
●ハイポン20デクロ　●ハイポン20ファイン　●ハイポン20ファインHB ●水性ハイポン20　●ハイポンファインプライマーⅡ ●1液ハイポンファインデクロ　●エスパーワンエース　など

・上記以外の適用下塗り塗料につきましては、最寄りの営業所までお問い合わせください。

乾燥時間

	5℃	23℃	30℃
指触乾燥	1時間	1時間	30分
塗り重ね乾燥	16時間以上7日以内	4時間以上7日以内	3時間以上7日以内

・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

■使用上の注意事項（詳細な内容については、各製品の使用説明書などでご確認ください。）

①溶剤系の塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願い致します。
②所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
③硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
④水の混入は絶対に避けてください。
⑤塗料を扱う場合は、皮膚に付着しないようにご注意ください。また、蒸気やミストなども吸い込まないように十分にご注意ください。
⑥塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合（高湿度、結露、降雨など）、塗膜表面が白化するおそれがあります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
⑦旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
⑧内部塗替えにおいて旧塗膜がOP、FEなどの油性系の場合、研磨ずりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
⑨改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
⑩素地の乾燥は十分に行ってください。
⑪塗装場所の気温が5℃以下もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
⑫塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。
⑬屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
⑭塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
⑮塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
⑯飛散防止のため必ず養生を行ってください。
⑰シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。
⑱笠木、天端など長時間水が滞留する個所では塗膜の白化、腫れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
⑲塗料は内容物が均一になるようかくはんしてください。薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
⑳はけなどの塗料用具の洗いは、ラッカーシンナーを使用してください。
㉑ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
㉒可塑剤が多く含まれる塩ビゾル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革、塩ビクロスなどへの直接塗料はお避けください。また、これからの部材に塗膜が直接触れることがないようご注意ください。
㉓表面に特殊セラミック処理・特殊ガラスコート処理、フッ素コート処理、はっ水処理、光触媒処理などの特殊な処理を施した素材には、塗料が付着しない場合や、塗膜に不具合を生じる場合がありますので塗装を避けてください。
㉔没水部への使用は避けてください。
㉕建築物屋根への使用は避けてください。旧塗膜の種類により、塗り重ね部で十分な付着性が得られない場合があります。
㉖長毛ローラーでの塗装の場合、作業性が劣ることがございますので、短毛もしくは中毛ローラーをお勧めします。
㉗塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
㉘製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。

■安全衛生上の注意事項

ハイポンサビスタ　塗料液　　**横倒禁止**

①本来の用途以外に使用しないでください。
②使用前に取扱説明書を入手してください。
③すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないでください。
④熱／火花／炎／高温のもののような着火源から遠ざけてください。－禁煙です。
⑤容器を密閉しておいてください。
⑥容器を接地／アースをとってください。
⑦防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用してください。
⑧火花を発生させない工具を使用してください。
⑨静電気放電に対する予防措置を講じてください。
⑩粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないでください。
⑪取扱い後は、手洗いおよびうがいを十分に行ってください。
⑫この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないでください。
⑬屋外または換気の良い場所でのみ使用してください。
⑭必要な時以外は、環境への放出を避けてください。
⑮保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用してください
⑯取り扱い中に酸化剤との接触を避ける。（酸化剤の例:消防法第1類、消防法第6類、硝酸、過酸化水素水、水酸化ナトリウム、水酸化 カリウム）
⑰気分が悪い時は、医師の診断／手当を受けてください。
⑱緊急の特別な処置が必要な場合は実施してください。
⑲口をすすいでください。
⑳容器からこぼれた時には、布で拭き取って水を張った容器に保管してください。
㉑漏出物を回収してください。
㉒皮膚または髪に付いた場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱いでください。皮膚を流水かシャワーで洗ってください。
㉓吸入した場合:気分が悪い時は、医師に連絡してください。
㉔吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。
㉕眼に入った場合:水で数分間注意深く洗ってください。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外してください。その後も洗浄を続けてください。
㉖ばく露またはばく露の懸念がある場合:医師の診断／手当てを受けてください。
㉗皮膚刺激を生じた場合:医師の診断／手当てを受けてください。
㉘眼の刺激が続く場合は:医師の診断／手当てを受けてください。
㉙汚染された衣類を脱いで、再使用する場合には洗濯してください。
㉚火災の場合:消火に適切な手段を使用してください。
㉛施錠して保管してください。
㉜換気の良い場所で保管してください。涼しいところにおいてください。
㉝直射日光や水濡れは厳禁です。
㉞塗料等の缶の積み重ねは3段までとしてください。
㉟日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。輸送中も50℃以上（スプレー缶の場合は40℃以上）の温度にばく露しないでください。
㊱容器はつり上げないでください。やむを得ずつり上げるときには、適切なつり具で、垂直に持ち上げ、落下に十分注意してください。（偏荷重になると取っ手が外れ、落下事故の危険があります。）
㊲内容物／容器を国／地方自治体の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
㊳塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

＊上記の表示は一例です。色相などにより、容器の表示と異なる場合があります。
■詳細な内容、表示例以外の製品については、安全データシート（SDS）をご参照ください。
■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は事前にご相談ください。

危　険	危険有害性情報
	引火性の高い液体および蒸気／皮膚刺激／強い眼刺激／遺伝性疾患のおそれ／発がんのおそれ／生殖能または胎児への悪影響のおそれ／臓器の障害（単回暴露）／吸入すると有害／長期にわたるまたは反復暴露による臓器の障害／水生生物に毒性／長期的影響により水生生物に毒性

日本ペイント株式会社
お客さまセンター
☎03-3740-1120（東京）
☎06-6455-9113（大阪）
http://www.nipponpaint.co.jp/

カタログNo.
NP-S185
KE150306T
2015年3月現在

●このカタログは再生紙を使用しています。